

- 問1 奈良時代に政府の命令によって編纂された『風土記』の内容や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2021年 鳥取公立入試 類似)
1. 中央政府が地方の資源や文化を把握するため、各地の産物や地名の由来、伝承などを記録させた。
 2. 天皇の位の正当性を示すため、神話から続く国家の成り立ちを編年体で記述した。
 3. 仏教による鎮護国家を目指し、各地に建立された国分寺の歴史や由来をまとめた。
 4. 租・庸・調などの税率を決定するため、全国の戸籍とあわせて土地の面積を詳細に記録した。
- 問2 奈良時代の天平文化の特徴について、当時の国際情勢や文化交流の観点から説明したものと正しいものを選びなさい。(2022年 新潟県公立入試 類似)
1. 遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。
 2. 武士の精神を反映した、素朴で力強い文化が鎌倉を中心に展開された。
 3. 遣唐使の廃止によって唐との交流が途絶えたため、日本独自の優雅な国風文化が生まれた。
 4. 禅宗の影響を強く受け、水墨画や茶の湯などの質素な美を尊ぶ文化が形成された。
- 問3 聖武天皇が「鎮護国家」の思想に基づいて全国に展開した政策として、最も適切な説明はどれですか。(2015年 佐賀公立入試 類似)
1. 全国の諸国ごとに国分寺・国分尼寺を建て、都の東大寺には大仏を造った
 2. 平安京に東寺と西寺を建て、全国の主要な山々に修験道の道場を開いた
 3. 地方の豪族を郡司に任命し、各地の神社を管理させる制度を整えた
 4. 遣唐使を派遣して最新の儒教を取り入れ、官僚養成のための大学を全国に作った
- 問4 奈良時代の中頃、聖武天皇は、社会の混乱を鎮めるために仏教の力によって国家の安泰をはかろうとしました。このような考え方を何といいますか。(2023年 高知公立入試 類似)
1. 鎮護国家の思想
 2. 末法思想
 3. 浄土信仰
 4. 神仏習合
- 問5 聖武天皇が、都に東大寺を、全国各地に国分寺・国分尼寺を建立するなどの大規模な造営事業を次々と進めた背景にある目的や理由について、最も深く関連する説明を選んでください。(2016年 長崎県公立入試 類似)
1. 伝染病の流行や政治の対立による社会的な動揺を、仏教の力によって抑え込み、国家の平和を祈るため。
 2. 地方の豪族たちの信仰を強制的に統一し、中央集権的な戸籍制度を強化するための役所として機能させるため。
 3. シルクロードを通じてもたらされた唐の最新の建築技術を、民衆に見せつけることで天皇の威信を高めるため。
 4. 比叡山や高野山などの山岳信仰と結びついた新しい仏教を、都市部から排除して国家の管理下に置くため。
- 問6 律令制度のもとでは、農民に対して「租・調・庸」などの重い負担が課されていました。万葉集に収められた山上憶良の「貧窮問答歌」には、里長（さとおさ）が税の取り立てにやってきて、厳しい声をあげる様子や、衣類も満足にない中で子供たちが泣きつく悲惨な生活が描かれています。当時のこうした負担の内容について、正しく述べたものはどれですか。(2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 口分田の収穫から一定割合の米を納める租のほか、地方の特産物を納める調、都での労働の代わりに布を納める庸などが課された。
 2. 「惣」と呼ばれる村の自治組織が作られ、村全体で一括して年貢を納める仕組みが取られたが、凶作の際には免除された。
 3. 近隣の5軒を「五人組」として組織し、税の納入や犯罪に対して連帯責任を負わせることで、確実な徴収が行われた。
 4. 国民の義務として「小学校」への就学が命じられ、その教育費を捻出するために、米ではなく現金で納税することが義務付けられた。
- 問7 律令時代の戸籍に関する統計資料において、ある地域の登録者の大半が女性として記録され、男性の割合が不自然に低くなっている事例が見られます。このように性別や年齢を偽って登録が行われた最大の目的として、最も適切な説明はどれですか。(2018年 徳島公立入試 類似)
1. 兵役や労役、庸・調といった重い税の負担を免れるため
 2. 貴族の荘園で働くための労働力を確保するため
 3. 班田収授法によってより多くの口分田を受け取るため
 4. 国民の義務として「小学校」への就学が命じられ、その教育費を捻出するために、米ではなく現金で納税することが義務付けられた。
- 問8 飛鳥時代後期から行われた、戸籍に登録された人々に口分田を分け与え、その人が死ぬと国に返還させた土地制度はどれか。(2023年 青森県公立入試 類似)
1. 班田収授法
 2. 墾田永年私財法
 3. 公地公民制
 4. 三世一身の法
- 問9 律令国家の政治組織において、中央には神祇官や太政官が置かれていましたが、地方の九州には「大宰府」という特別な機関が置かれました。この大宰府が、東アジアの国々に対して担っていた主な役割の説明として、最も適切なものを選びなさい。(2018年 大分県公立入試 類似)
1. 外国使節の接待などの外交や、大陸からの侵攻に備える防衛の拠点としての役割
 2. 農民から租・庸・調などの税を徴収し、中央へ送るための徴税の拠点としての役割
 3. 各国の戸籍を作成し、土地の分配や裁判を管理する地方行政の拠点としての役割
 4. 全国の国分寺を統括し、仏教の教えによって国家を鎮める宗教の拠点としての役割
- 問10 律令国家の形成と変化について述べた次の記述のうち、出来事の時期が古い順に並んでいるものはどれですか。対象となる出来事は「大宝律令の制定」「墾田永年私財法の制定」「平安京への遷都」の3点とします。(2020年 沖縄公立入試 類似)
1. 大宝律令の制定 → 墾田永年私財法の制定 → 平安京への遷都
 2. 大宝律令の制定 → 平安京への遷都 → 墾田永年私財法の制定
 3. 墾田永年私財法の制定 → 大宝律令の制定 → 平安京への遷都
 4. 平安京への遷都 → 墾田永年私財法の制定 → 大宝律令の制定
- 問11 奈良時代の税制において、現在の島根県にあたる地域から、出雲の絹布や絹糸、石見の紙、隠岐のアワビやイカといった「その土地の産物」が都に納められていたことを示す記録があります。このような、各地の特産品を中央政府に納める税を何といいますか。(2024年 島根公立入試 類似)
1. 租
 2. 庸
 3. 調
 4. 防人
- 問12 奈良時代の8世紀半ば、聖武天皇が多額の費用と労働力を投じて大仏の造立や国分寺の建立を進めた背景にある目的として、最も適切な説明はどれですか。(2021年 沖縄公立入試 類似)
1. 仏教を国家の教えとして広めることで、疫病や社会不安による混乱を鎮めるため
 2. 有力な貴族たちの財産や権力を抑制し、天皇による独裁体制を強化するため
 3. 他国からの軍事的侵略を防ぐため、寺院を軍事的な要塞として利用するため
 4. 急速に普及していたキリスト教に対抗し、日本の伝統的な神道を保護するため
- 問13 奈良時代、聖武天皇の時代を中心に栄えた文化について、遣唐使などの往来を通じて西アジアやペルシアなどの影響を強く受けた、国際色豊かな特色を持つ文化の名称として正しいものを選択してください。(2019年 岡山公立入試 類似)
1. 天平文化
 2. 国風文化
 3. 化政文化
 4. 飛鳥文化

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中央政府が地方の資源や文化を把握するため、各地の産物や地名の由来、伝承などを記録させた。	律令国家としての体制を整える過程で、政府が地方の自然環境、経済資源、そして地元の伝統文化を正確に把握するために作成を命じた地理書です。単なる事務的な報告にとどまらず、その土地に伝わる伝説なども含まれている点が大きな特徴です。
問2	答え 1 遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。	天平文化は、遣唐使によってもたらされた唐の高度な文化や仏教の影響を強く受けています。当時の唐は西アジアなどとも交流があったため、正倉院の宝物にはペルシヤ風の意匠が見られるなど、国際色豊かな（国際性豊かな）文化であったことが特徴です。一方で、国風文化は平安時代中期以降、水墨画などの文化は室町時代以降の特色であるため混同しないよう注意が必要です。
問3	答え 1 全国の諸国ごとに国分寺・国分尼寺を建て、都の東大寺には大仏を造った	聖武天皇は、都である平城京の東大寺に総国分寺としての役割を持つ大仏を建立するとともに、地方の各国には国分寺と国分尼寺を設置させました。肥前国などの地方の国分寺跡からは、当時使われていた瓦なども出土しており、この政策が全国規模で行われたことが裏付けられています。
問4	答え 1 鎮護国家の思想	聖武天皇の時代には、疫病の流行や政治的な混乱が続いていました。天皇はこれらを仏教の力で解決しようと考え、この思想に基づいて全国に寺院を建立するなどの政策を推し進めました。仏教を国家の統治に利用しようとした点が特徴です。
問5	答え 1 伝染病の流行や政治の対立による社会的な動揺を、仏教の力によって抑え込み、国家の平和を祈るため。	聖武天皇の時代は、藤原広嗣の乱などの政治的混乱や、多くの死者を出した天然痘の流行、大地震などの災害が重なった時期でした。天皇はこれらの災厄を個人的な不徳によるものと考え、仏教の力に頼ることで社会を安定させ、人々の不安を取り除こうとする「鎮護国家」の政策を強力に推進しました。
問6	答え 1 口分田の収穫から一定割合の米を納める租のほか、地方の特産物を納める調、都での労働の代わりに布を納める庸などが課された。	律令国家の財政を支えるため、農民には多大な負担がありました。主に口分田の面積に応じて米を納める「租」、各地の特産物（絹や海産物など）を都まで運んで納める「調」、都での労役の代わりに布を納める「庸」がありました。これらに加えて、九州の警備にあたる防人（さきもり）などの「兵役」もあり、自分の食料を自ら用意して都や防衛地まで向かわなければならなかったため、農民の生活は「貧窮問答歌」に描かれるように極めて困窮していました。
問7	答え 1 兵役や労役、庸・調といった重い税の負担を免れるため	当時の税制度では、男性には都での労役である庸や、地方特産物を納める調、さらには防人などの兵役や地方での土木作業（雑徭）といった厳しい義務が課せられていました。一方で、女性にはこれらの負担がほとんどなかったため、戸籍を操作して男性を女性と偽る「偽籍」が横行しました。統計上の男女比が極端に偏っている事実は、当時の農民がいかに過酷な負担から逃れようとしていたかを物語っています。
問8	答え 1 班田収授法	唐の均田制にならって導入された制度であり、6歳以上の男女に口分田が班給された。これにより国家が土地と人民を直接支配し、税収を確保しようとした。墾田永年私財法は後に土地の私有を認めた法であり、この制度の崩壊につながった。
問9	答え 1 外国使節の接待などの外交や、大陸からの侵攻に備える防衛の拠点としての役割	九州は地理的に大陸や朝鮮半島に近いため、大宰府は単なる地方行政機関としての機能だけでなく、唐や新羅からの使節を迎え入れる「外交」の窓口としての役割を果たしました。また、白村江の戦いでの敗北後などは、大陸側からの攻撃を想定した「防衛」の要としての機能も極めて重要視されました。
問10	答え 1 大宝律令の制定 → 墾田永年私財法の制定 → 平安京への遷都	701年に大宝律令が制定されて律令国家の仕組みが整い、その後、人口増加による土地不足を解消するため743年に墾田永年私財法が制定されました。そして8世紀末の794年に、政治の刷新を目指して平安京への遷都が行われました。これらの流れは律令体制が確立した後に、土地制度の変化などを経て平安時代へと移行していく過程を示しています。
問11	答え 3 調	奈良時代の律令制度のもとでは、民衆に対して様々な税が課せられました。このうち、布や紙、各地の海産物といった「地方の特産品」を都まで運んで納める制度を「調」と呼びます。現在の島根県（出雲・石見・隠岐）から納められた品々が多様であるように、全国各地の地理的特性に応じた物品が徴収され、都の貴族の給与や政府の運営費用に充てられました。
問12	答え 1 仏教を国家の教えとして広めることで、疫病や社会不安による混乱を鎮めるため	当時の記録（年表上の項目など）によれば、この時期は感染症の流行によって多くの命が失われ、政治的な対立も続いていました。聖武天皇は、人々の心のよりどころを仏教に求め、国家が主体となって仏教を奨励することで、社会を平穩に導こうと試みました。これは、単なる個人の信仰を超えた、国の統治政策の一環でした。
問13	答え 1 天平文化	聖武天皇の時代には遣唐使が頻りに派遣され、唐の優れた制度や仏教とともに、シルクロードを経由して西アジアの意匠や技術が日本にもたらされました。この時期の文化は、当時の都である平城京を中心に展開され、仏教的・国際的な色合いを強く帯びているのが特徴です。